

# News Letter

Vol.1 No.1

平成7年1月18日 発行

発行人 花嶋 正孝

事務局 日本技術開発(株)

〒164 東京都中野区本町5-33-11  
中野清水ビル

TEL 03-5385-5111 FAX 03-5385-8515

## LS研ニュースレター

最終処分場技術システム研究会



## 年頭にあたって

最終処分場技術システム研究会

代表 花嶋 正孝

(福岡大学工学部教授)

明けましておめでとうございます。新年をお健やかに迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は記録的な猛暑と全国的な水不足の天候不順、経済の停滞、さらには、政治の混迷と激動の一年でした。

最終処分場を巡る外部環境も、シュレッダーダストの処理方法の変化(管理型埋立への移行)、水質汚濁防止法の改正、そして、しゃ水シート問題と社会情勢と同様、激動の一年でした。

このような状況下、最終処分場技術システム研究会(略称LS研)が4月に発足し、早いもので9ヶ月が経過しようとしています。

この間、部会幹事、グループリーダー、分科会主査、あるいは研究会メンバーの皆様の努力により、着々と成果があがっています。

平成6年度は初年度ということもあり、基礎資料の整理、問題点の把握を中心として活動してま

いりましたが、平成7年度は、これらをベースにより本格的研究に着手する必要があります。例えば、しゃ水シートの規格づくりや試験法などは、現在、早急に確立する必要がある技術的課題といえるでしょう。

LS研は、最終処分場に関連する異業種のそれぞれの分野のプロフェッショナルが結集した我が国でも数少ない集団です。

このため、フィールドで求められている様々な課題に対して、業界横断的に検討対処することにより、よりよい技術を開発することが可能となります。

この目標達成のため、まずは、順調なスタートを踏み出したと思います。今後のさらなるステップアップのため、私も皆様と力をあわせ努力する所存ですのでよろしく御願ひ申し上げます。



## ニュースレター 創刊にあたり

最終処分場技術システム研究会

副代表 田中 信寿

(北海道大学工学部教授)

日本の廃棄物問題解決の鍵はまさしく埋立処分工学が握っています。日本では埋立処分場を確保することが困難であるために、減量化を目指して

焼却処理率を向上させています。このことに私は疑問を感じています。炭酸ガス放出量を現状のレベルに維持しても地球温暖化は避けられないとい

う報告がでたり、ごみ焼却に伴うダイオキシン発生が特に小規模な炉で大きいという問題が残され、徹底的な焼却が良い選択かどうか疑問があります。また、焼却の強化によって、埋立物中に重金属が濃縮され高いリスク要素となっていますし、塩濃度の高い浸出水が発生し水処理に困難を来しています。このように、今こそ日本のごみ埋立処分技術研究の真価が問われています。

現在の埋立処分は“Bio-Reactor Landfill”概念に根ざして早期安定化などの技術が改良されてきたといえます。しかし、この反応器であるということが広く認識されなかったために、容器の重要性について考え方が甘かった。つまり、容器構造をどのように作るのかについて力点が置かれなかった。また、現在は底部のしゃ水構造のみに眼が向いているが、有害な揮発性有機化合物はガス側に排出される傾向が高いから、覆土という容器



## 創刊にあたって

LS研が発足して、早9カ月が過ぎようとしています。一昨年の8月に、花嶋先生を中心として、最終処分場が抱える様々な課題に、総合的に取り組む研究会を作ろうと準備を始めたのが、つい昨日のことのように思い出されます。

幸い、この分野に関連する方々の温かいご理解とご支援がえられ、昨年4月に順調にスタートを切ることができました。今では、「最終処分場関連技術の頭脳集団として重要な位置を固めつつある」と評価して下さる月刊誌もあるぐらいです。

そうは言っても、何分にも活動を始めたばかりの、100社近くの様々な業種の集まりの研究会ですので、多くの問題を抱えており、期待に実質が伴っていないのが現状です。しかし、1年間ぐらいいは、大きく育つためにむしろ試行錯誤の時期が必要ではないかと思っています。

最近特に考えさせられることとして、環境への最終バリエーションとしての最終処分場から、逆に眺めた廃棄物の適正処理の方法（最終処分から、排出まで）の検討（逆問題）と、資源保全・潜在廃棄物

構造とガス抜き管という埋立ガス出口についてもっと注目するべきかも知れない。

また、底部しゃ水シートからの漏れの重要な原因の一つは浸出水の埋立地内貯留にある。しゃ水シートに破れ目を作らないことのみで注目していたのでは、認識不足の謗りを免れない。漏れが少量であればシート下の土壌層で十分浄化できるから、しゃ水工のみで浸出水漏れを防止しようとするのではなく、浸出水を埋立地に溜めないようにすることも合わせ行うことが重要である。

LS研が埋立技術の開発のみでなく、このような基本認識を明確にして多くの関係者に啓蒙する努力もぜひ行いたいことの一つである。

LS研の一員として今後も一層の努力をし、廃棄物問題、埋立処分場問題の早期解決に貢献したいと決意しています。

最終処分場技術システム研究会

副代表 古市 徹

(大阪府立大学工学部助教授)

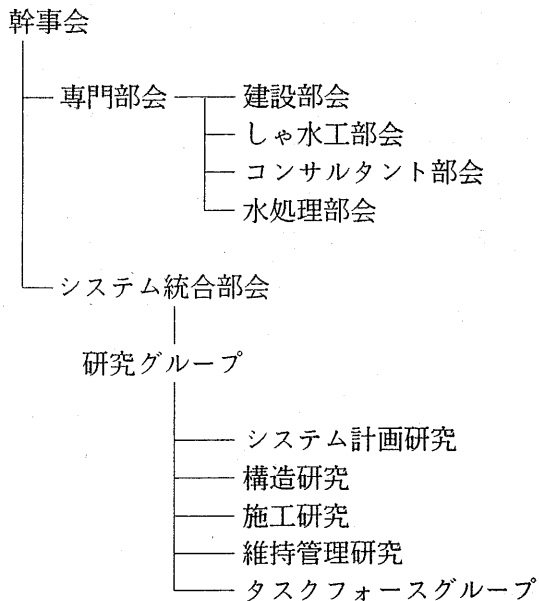
も含めた廃棄物発生源の管理の在り方（順問題）についてどのように考えていくのかということがあります。つまり、順問題の基本的視点のもとで、逆問題の解決に向けて、最終処分場の機能を支えるハードとしての技術とソフトとしての管理システムを統合した総合技術システムを、社会的ニーズを踏まえた優先順位を考慮して如何に計画・設計していくかが重要と考えています。

これは、当たり前のことですが、実践していくには非常に難しい問題です。しかし、LS研のメンバーの技術ポテンシャルと組織力を持ってすれば、解決不可能ではないと考えますが、メンバーの皆様如何でしょうか。



## 組織

平成6年度は以下の組織にてLS研を運営しています。



(平成7年1月現在)

### 幹事会

代表 花嶋 正孝 (福岡大学)  
副代表 田中 信寿 (北海道大学)  
副代表 古市 徹 (大阪府立大学)

### 専門部会

◎樋口 壯太郎 (日本技術開発)  
山岡 亮介 (大林組)  
上田 滋夫 (ブリヂストン)  
伊藤 三郎 (荏原製作所)

### システム統合部会 (古市部会長)

福本 二也 (建設技術研究所)  
押方 利郎 (大成建設)  
浦 満彦 (鹿島建設)  
近藤 三樹郎 (ブリヂストン)  
正井 敬人 (太陽工業)  
鈴木 茂 (日本ゼオン)  
堀井 安雄 (クボタ)  
三崎 岳郎 (栗田工業)

### ◎は幹事長

\*顧問 田中 勝 (国立公衆衛生院)  
中杉 修身 (国立環境研究所)  
\*会計監事 尾上 健治 (小松製作所)  
\*事務局 垂水 伸之 (日本技術開発)

## 略称決定

当研究会の名称が長いので呼びやすい略称を、という多くの会員の声を受け、幹事会において検討致しました結果、『LS研』と決定いたしました。今後はこの略称を使用して下さい。

## 幹事会・システム統合部会に委員会発足

研究会の運営をスムーズに行うためにシステム統合部会の中に以下の4委員会を発足させました。

- ・企画委員会…○福本、堀井、正木
  - ・広報委員会…○三崎、鈴木
  - ・総務委員会…○近藤、浦
  - ・特許委員会…○山岡、渡辺、樋口、近藤、大津
- 印は委員長

## 研究グループの概要

LS研は4つの研究グループと1つのタスクフォースグループに分かれています。各研究グループはグループリーダーを中心にし、それぞれ分科会を持ち、16名の分科会の主査を中心に有機的に活動を行っています。

各研究グループおよび分科会の具体的な活動内容については次号より順次紹介していきます。

- I. システム計画研究グループ (古市リーダー)
  - リスク管理・計画策定の視点から最終処分場のソフトウェアの問題について取り組む。
    - 1 リスク管理 (仲村)
    - 2 処分場計画論 (福本)
    - 3 情報管理 (羽原)
- II. 構造研究グループ (樋口リーダー)
  - 最終処分場建設事例や経験を元に、問題点、課題を整理し最終処分場の構造について検討する。
    - 1 浸出水処理システム (松井)
    - 2 しゃ水システム (高木)
    - 3 シート規格 (正井)
    - 4 シート固定工 (坪井)
    - 5 下地性状 (木原)
    - 6 施設構造 (上野)
- III. 施工研究グループ (押方リーダー)
  - 最終処分場建設時の施工方法や施工管理、特にしゃ水シートと基礎地盤に関する設計、施工法に

ついて検討する。

- 1 シート試験方法 (山口)
- 2 シート施工 (加納)
- 3 基盤整備及法面施工 (川口)
- 4 施設施工 (馬渡)

#### IV. 維持管理研究グループ (堀井リーダー)

適正な維持管理が行われるために、埋立管理、施設管理及び水質管理について検討する。

- 1 埋立管理 (佐々木)
- 2 水質管理 (富田)
- 3 施設管理 (西川)

#### V. タスクフォースグループ (三崎リーダー)

公的機関等からの要請に基づくワーキンググループの構成等の必要が生じた場合に対応する。

- 1 「廃棄物最終処分場のしゃ水シートの安全性に関する調査」(廃棄物研究財団・ワーキンググループ)

\* ( ) 内はグループリーダー及び分科会主査

### 研究会活動実績

各グループは次に示しますように初年度にもかかわらず非常に活発な活動を行っていますが、今回は紙面の都合上、残念ながら各委員会の活動日の実績に止めますが、次回からは各活動内容が判るようにお知らせします。

○LS研の設立総会は、平成6年4月25日(月)に、如水会館スターホールにて開催され、花嶋代表をはじめ各役員、予算等が決定されました。

○幹事会 5/18、6/8、7/27、9/29、11/29

○システム統合部会

5/18、6/8、7/27、9/13、9/29、11/29

・企画委員会

6/16、8/9、9/27、10/24、10/31、12/5

・特許特別委員会 9/26

○専門部会

しゃ水工部会 5/26、6/22、7/21、8/25、  
10/21、12/1

水処理部会 5/13、6/21、9/1、12/14

○研究グループ

・全体主査会議 7/27

・各分科会

I 主査会 10/27 グループ会 12/22

- 1 8/3、9/6、10/4、11/1、12/6

- 2 7/12、9/7、10/12、11/16、12/15

- 3 7/5、8/9、10/6、11/30

II-1 7/7、8/25、9/20、10/21、12/6

- 2 7/12、8/10、9/21、10/27、11/18、12/15

- 3 7/12、8/30、9/21、10/4、11/7、12/13

- 4 7/12、9/29、11/29

- 5 7/12、8/1、9/6、10/4、11/1、12/12

- 6 7/12、8/4、10/13、12/14

III-1 7/12、9/6、9/21、11/17、12/13

- 2 7/8、8/24、10/4、11/1、12/13

- 3 7/12、8/24、9/19、10/31、11/29、12/21

- 4 7/15、9/6、10/18、11/28

IV 主査会 9/13

- 1 7/13、8/1、10/20、11/16

- 2 7/13、8/22、9/26、12/12

- 3 7/12、9/8、11/16

V 6/15、8/5、9/20、10/20

### 会 員 (平成7年1月現在)

・学識経験者	3名
・建設部会	23社
・しゃ水工部会	45社
・コンサルタント部会	20社
・水処理部会	9社
・その他	1社
合 計	101

(会員名簿は別紙)

### 編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年4月に設立しましたLS研もようやく研究体制が整って、新たな年をむかえることができました。

本号はその記念すべき創刊号です。広報は本文にもありましたように、鈴木、三崎が担当致します。なにぶんにもなれない広報委員ですが宜しくお願い致します。今後は徐々に連載ものも企画していこうかと思っております。ご意見、投稿大歓迎です。



# 最終処分場技術システム研究会会員名簿

## 【学識経験者】

花嶋 正孝  
田中 信寿  
古市 徹

## 【会社名・50音順】

旭化成工業(株)  
(株)アサヒコーポレーション  
アジア航測(株)  
(株)新井組  
宇部興産(株)  
(株)エックス都市研究所  
(株)荏原製作所  
応用地質(株)  
(株)大林組  
(株)奥村組  
(株)オストランド  
オリジナル設計(株)  
鹿島建設(株)  
カネボウ化成(株)  
カーボフォル・ジャパン(株)  
(株)環境技研コンサルタント  
(株)環境建設エンジニアリング  
(株)環境整備設計事務所  
(株)協和コンサルタンツ  
協和醗酵工業(株)  
(株)クボタ  
(株)熊谷組  
(株)クラレ  
栗田工業(株)  
(株)建設技術研究所  
国際航業(株)  
(株)小松製作所  
五洋建設(株)  
佐藤工業(株)

山水産業(株)  
シーアイ化成(株)  
シバタ工業(株)  
清水建設(株)  
昭石化工(株)  
神鋼パンテック(株)  
住友建設(株)  
住友ゴム工業(株)  
住友重機械工業(株)  
(株)住化土建設計  
西武ポリマ化成(株)  
積水化成品工業(株)  
繊維土木開発(株)  
(株)総合エンジニアリング  
大成建設(株)  
ダイニック(株)  
大日本土木(株)  
太陽工業(株)  
太洋興業(株)  
タキロン(株)  
(株)竹中土木  
(株)タツノ化学  
(株)田中  
チッソ(株)  
筒中シート防水(株)  
帝人(株)  
東亜建設工業(株)  
東急建設(株)  
東拓工業(株)  
戸田建設(株)  
東洋ゴム工業(株)  
東洋紡績(株)  
東レ(株)  
東和科学(株)  
飛島建設(株)

(株)虎ノ門コンサルタンツ  
(株)西原環境衛生研究所  
西松建設(株)  
日ケミ商事(株)  
日商岩井ベントナイト(株)  
日新工業(株)  
日本碍子(株)  
日本技術開発(株)  
日本国土開発(株)  
日本ゼオン(株)  
日本ラテックス加工(株)  
(株)ハザマ  
パシフィックコンサルタンツ(株)  
(株)パスコ  
長谷川化学工業(株)  
バンドー化学(株)  
日立電線(株)  
日立プラント建設(株)  
復建調査設計(株)  
(株)福田組  
(株)フジタ  
フジモリ産業(株)  
不動建設(株)  
(株)ブリヂストン  
(株)豊順洋行  
前田建設工業(株)  
三井石化産資(株)  
三菱化工機(株)  
三菱化成ビニル(株)  
三星産業(株)  
三ツ星ベルト(株)  
八千代エンジニアリング(株)  
ユニチカ(株)  
横浜ゴム(株)  
合計 3名・98社